

The background features two thick, light blue curved lines that sweep across the page from the top and bottom edges, creating a sense of movement and framing the central text.

第5次茅野市総合計画 2018-2027

八ヶ岳の自然、人、技、歴史が織りなす
やさしさと活力あるまち

みんなで作る みんなの茅野市





本格的な人口減少時代の到来、進行する少子化・高齢化、頻発する大規模災害、老朽化する公共施設やインフラ施設への対応など、日本を、また、茅野市を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化してきました。平成30年（2018年）は、茅野市が昭和33年（1958年）8月に市制を施行して以来、60周年の節目の年にあたります。この60年間、先人の努力により、茅野市は順調に発展を続けてきました。しかし、人口減少・少子・高齢化社会を迎え、茅野市は今、大きな時代の転換点の上に立っています。

このような大きな潮流の中で、平成30年度（2018年度）からスタートする第5次茅野市総合計画を策定しました。第5次茅野市総合計画は、目指すまちの将来像を「八ヶ岳の自然、人、技、歴史が織りなす やさしさと活力あるまち」とし、八ヶ岳に抱かれた豊かな自然を大切に、未来の子孫に継承していくこと、暮らしの安全が確保され、安心して生活できること、そして、それらを支える産業があり、働くことに誇りと喜びがあるまちづくりを進めていくこととしました。

より厳しい時代が予想される状況だからこそ、大胆な発想の転換により、持続可能なまちづくりを進める必要があります。市民と共に描いた理想（ゆめ）を現実（かたち）にしていくため、市民をはじめとするあらゆる主体と市職員が、大きな目的の達成に向け想いを共有し、丁寧な合意形成を進め、信頼関係の上に立った「みんなでつくる みんなの茅野市」に向けたまちづくりに取り組んでまいります。

結びに、第5次茅野市総合計画基本構想の策定や基本計画にあたる分野別計画の策定にあたりましては、茅野市総合計画審議会の委員25人をはじめ、都合600人を数える多くの市民の皆さまにご参画いただきました。改めてお力をいただいたことにつきまして、感謝とお礼を申し上げます。

平成30年9月
茅野市長 柳平 千代一